

橋本病と診断された方へ

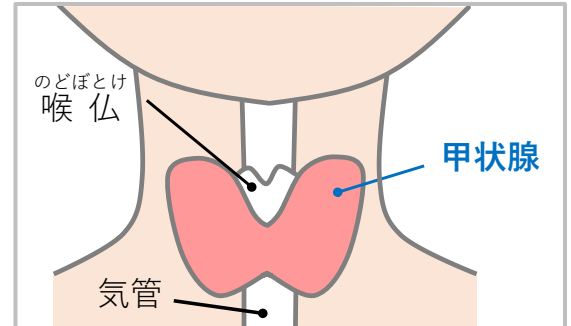


ご不明な点や不安なことが
ありましたら、お気軽に
ご相談ください

1. 甲状腺とは

甲状腺は、首の前側・喉仏のすぐ下にある幅約3 cmほどの小さな臓器です。左右に羽を広げた蝶のような形をしており、気管を包むように位置しています。

この甲状腺で作られる**甲状腺ホルモン（FT3：遊離トリヨードサイロニン、FT4：遊離サイロキシシン）**は、体の代謝や体温の調節、成長や発達など、全身のさまざまな働きに深く関わっており、健康を維持するのに欠かせない重要な役割を担っています。



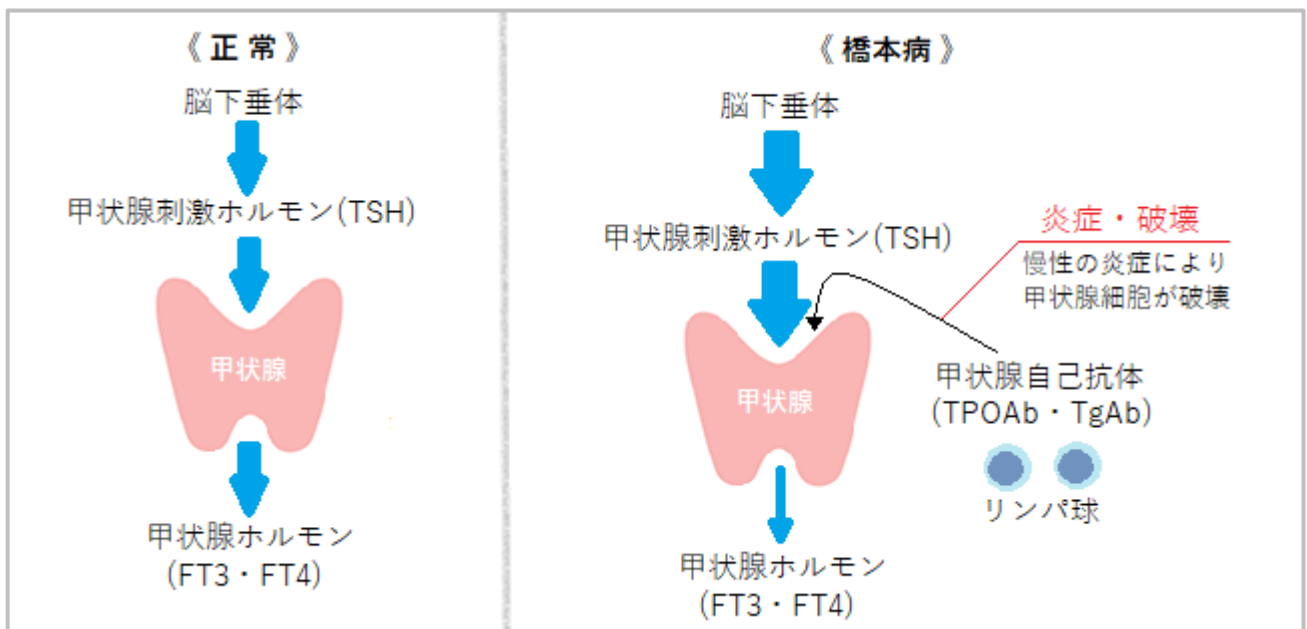
甲状腺ホルモンの量は、脳の下垂体から甲状腺へ分泌される**甲状腺刺激ホルモン（TSH）**の働きによって、本来は体の状態に合わせて適切に調整されています。

2. 橋本病とは

橋本病は、**甲状腺に慢性的な炎症が起こる自己免疫疾患**で、「**慢性甲状腺炎**」とも呼ばれます。本来、細菌やウイルスなどから体を守る免疫システムに異常が生じ、自身の甲状腺組織を誤って“異物”と認識することで、過剰な免疫反応が引き起こされます。

橋本病では、免疫機能の中心を担う**リンパ球**（白血球の一種）が甲状腺に集まり、甲状腺細胞を傷つけます。これにより甲状腺ホルモンの分泌量が減少し、炎症が慢性化します。

また、リンパ球からは甲状腺に対する**自己抗体（抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体：TPOAb、抗サイログロブリン抗体：TgAb）**が作られます。これらの抗体は、甲状腺ホルモン産生に必要な部分と結合し、免疫反応をさらに強める原因となります。その結果、炎症が持続し、甲状腺の細胞が徐々に破壊されていくことがあります。



橋本病は、甲状腺疾患のなかでも**非常に頻度が高く、特に女性に多くみられる**のが特徴です。成人女性の約 10 人に 1 人、成人男性の約 40 人に 1 人が橋本病と診断されていると報告されています。

3. 橋本病の症状

橋本病では、主に次の 2 つの症状がみられます。

① 甲状腺腫

甲状腺に炎症が起きると、リンパ球などの免疫細胞が集まり、**甲状腺全体が腫れて大きくなる**ことがあります。これにより、首に違和感や圧迫感を感じる方もいます。

腫れの程度には個人差があり、しこりのように触れてわかる程度のものから、見た目で確認できるほど大きくなることもあります。**ほとんどの場合、痛みはありません。**

② 甲状腺機能低下症

甲状腺の炎症が長く続くことで、甲状腺組織が徐々に破壊され、**甲状腺ホルモンを作る力が弱くなる**ことがあります。甲状腺ホルモンが不足すると、全身の代謝が低下し、さまざまな症状が現れます。主な症状は以下の通りです。

- ・ **全身症状**：疲れやすい、顔や手足のむくみ、寒がりになる、体重増加、便秘、皮膚の乾燥、眠気、声のかすれ
- ・ **精神症状**：無気力、記憶力や集中力の低下
- ・ **その他**：コレステロール値の上昇、月経過多（女性） など

なお、橋本病のうち甲状腺機能低下症になるのは約 20～25% (4～5 人に 1 人未満) です。そのため、橋本病と診断されても、**甲状腺機能が正常で症状がない方も多くいます。**

4. 橋本病の治療



橋本病の方でも、**甲状腺の機能が正常であれば、基本的に治療の必要はありません。**

ただし、甲状腺機能が正常でも甲状腺の腫れ（甲状腺腫）が大きい場合は、甲状腺ホルモン剤を使って腫れを小さくする治療を行うことがあります。また、診断時に甲状腺機能が正常であっても、妊娠や出産などのライフイベントをきっかけに甲状腺機能が変化することがあります。そのため、**定期的な検査が推奨されています。**

甲状腺ホルモンが不足し**甲状腺機能低下症を発症した場合は**、不足している甲状腺ホルモンを補うために、**甲状腺ホルモン剤を服用**します。このお薬は、多くの場合、長期間飲み続ける必要がありますが、体内で作られるホルモンと同じ成分なので、**適切な量を服用している限り、副作用の心配はほとんどありません。**また、**妊娠を希望している方や妊娠中・授乳中の方も、甲状腺ホルモン剤は安心して服用できます。**胎児や赤ちゃんへの影響はなく、母子の健康を守るために非常に重要なお薬です。